

桜真

NO.51

2021(令和3)年2月18日発行
岩瀬日本大学高等学校
<https://www.tng.ac.jp/iwase/>
父母と教師の会
〒309-1453
茨城県桜川市友部1739
TEL 0296-75-2242
FAX 0296-75-4905



もうすぐ1年、「新しい生活様式」に取り組んだ日々

心の触れ合う日課

臨時休校明けから、箱根副教頭とともに毎日昇降口に立つ養護教諭の深谷先生は「毎日挨拶をしながら生徒の表情を見ることができたのは、私にもいい日課となりました」と振り返ります。ソーシャルディスタンスをとりながらも、心が通う朝の一コマです。

「忍耐で、果実の本当の甘さを知ろう！」



校長 齊藤克朗

春光、天地に満ちて快い季節を迎えようとしています。日頃より「父母と教師の会」の会員の皆様には本校の教育活動に対し多大なるご支援を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。また昨年からの「新型コロナウイルス感染症（以下・コロナ）対応」につきましても深いご理解とご協力をいただきましたことに重ねて感謝を申し上げます。

早いもので本年度も残りわずかになりました。本来であればこの令和二年度という年は歴史に残る華やかな一年になっていたことと思います。昨年の夏に東京で「オリンピック・パラリンピック」が開催され、その準備にはホスト国として宣言どおり「おもてなしの心」が実践され、開催中は選手たちの熱い戦いに一喜一憂し国中が大変に盛り上がったことでしょう。そして終了後は大震災からの復興を世界中に発信できたことを誇らしく思えたのではないのでしょうか。しかし、このコロナは私たちの生活や社会通念を一変させ世界中に脅威を与えるものとなりました。学校も突然の臨時休校や分散登校を余儀なくされ、オンライン授業の導入や楽しいはずの学校行事や部活動の発表の場である大会なども中止や延期になるなど混乱が次々と生じてしまいました。こうした初めての事態にも保護者の皆様方の絶大なるご理解とご協力によって今日を迎え

ることができましたことに感謝の気持ちで一杯です。

このコロナはまだまだ収束には至らないようで、「忍耐」の日々はまだ続くようです。ものは考えようで、「逆境は人を育てる。」という言葉があるように、この状況も自己を高めるために必要な時間や試練であると受け止められれば全てがマイナスではないと思っております。「新しい生活様式」を取り入れながら、我慢の先には必ず楽しい日々がやって来る、そのことを信じて毎日を送りたいと思います。

古代ギリシャの哲学者アリストテレスは、「忍耐とは苦しいものだ。しかし、その果実は甘い。」という言葉を残しています。



す。これは、苦しさ乗り越えた先には必ず楽しいことや嬉しいことが待っているということ、いつも甘いものばかりを食べるだけでは本当の果実の美味しさを感ずることができないという意味です。例えば、長距離を走

るランナーに「ランナーズ・ハイ」というものがあります。長い距離を走るといのは苦しいはずだが、市民ランナーの数は増える一方です。これは、辛いことや苦しいことに耐える力より、その先にある爽快感を感じる魅力の方が勝っているからで、辛さに耐えた自分が一回り大きく成長したことを実感できるからで、風雨に耐えて実った果実の本当の甘さを知ることに通じるからなのではないでしょうか。



人間は前向きに努力しないではいけない生き物として宿命づけられています。何事も成功を夢見て行動を起こすのですが、その成功には我慢に耐えて肅々と推し進める精神の強さがとても重要です。しかし最近若者ばかりか社会の第一線で働く我々大人たちでもちよつとした困難や試練に悲鳴を上げてしまうことがあります。またその困難や失敗の原因が他にあると責任を転嫁してしまう傾向もあるようです。このコロナは、そうした人としての心の弱さへの警鐘かも知れません。人は忍耐なくして成長はありません。この難局を全ての人が人間性を高める絶好の機会として捉え、忍耐の先にある本当の喜びを感じたいものです。またこのコロナを本校の未来を創造する節目にしたとも考えています。二〇二二年には本校も土浦日大高校から独立してから二十年目を迎えます。生徒たちの充実した学園生活の確保に努めることは勿論のこと学校の新たな歴史づくりの構築に向かつていかなければなりません。学校発展に向けてのこの大事な変革期、保護者の皆様方には、様々な学校活動に対しまして旧に倍してのご支援を賜りたいと存じます。

学校行事

○自転車通学者指導会

令和2年7月14日(火) 1年
7月15日(水) 2年
7月16日(木) 3年

生徒指導部主任の黒田先生から自転車運転する際の注意事項について説明があり、生徒は交通安全のDVDを観ながらワークシートの記入を行いました。密にならないように実施日を3日間設けて実施しました。

○JSDGsとデザイン オンライン取材会

令和2年7月22日(水)



パナソニックのオンライン取材会「ソウゾウするちから」ヒトのココロを想い、トキのありかたを考える」が開催され、飯山粹衣さん(2年2組)が参

加しました。他の参加者の新聞とともに共同通信社・文化プログラムプレスセンターのホームページに掲載されています。

○日大・総進コース1年 進路・卒業生講演会

令和2年9月5日(土)

文理選択・クラス選択に向けて、本校卒業生5名が貴重な話をしてくれました。今回はコロナ禍ということもありリモート講演も実施しました。卒業生は文理選択の話、大学生活や社会人としての話など、自分の失敗や成功の経験を織り交ぜながら熱く語ってくれました。

○日大・総進コース2年 進路・卒業生講演会

令和2年9月30日(水)

各教室でオンラインでの講演会となりましたが、中身の濃いオンラインならではの利点を十分に生かした講演となりました。生徒たちは「勉強方法や気持ちの切り替え方などの話がとてもためになりました」などと感想を述べていました。

○前期終業式

令和2年9月30日(水)

「茨城版コロナNext(コロナ対策指針)」を基準に判断し

感染防止対策を取りながら実施しました。今年度はコロナ禍の影響で秋期休業がなくなり10月1日(木)より後期授業が始まりました。

○岩日TV開局

令和2年10月21日(水)

イ(1)ワ(0)ニ(2)イチ(1)の日に「岩日TV」が開局し、毎月ソーシャルメディア部が学校の様子などを配信することになりました。

○全コース1学年 日大・総進コース2学年 保護者会

令和2年10月31日(土)

1学年では文理選択等について、また2学年では日本大学を中心とした推薦入試の出願基準等の説明を行いました。

○あいさつ・声かけ運動

令和2年11月5日(木)

正門前にて青少年育成桜川市民会議岩瀬支部の方々と本校風紀委員が登校して



くる生徒を「あいさつ」で出迎えました。

○全1学年 薬物乱用防止教育

令和2年11月12日(木)

講師に茨城県警察本部・少年サポートセンターの黒木ひろみ氏をお招きし、薬物乱用の現状と薬物依存の恐ろしさをご講演頂きました。お礼の言葉は木村海斗くん(1年2組)が「薬物は身近に潜んでいて他人事ではないということがわかり、薬物を絶対に使用しないという意識が高まりました。」と述べました。

○国立・特進1学年 キャリアデザイン講演会

令和2年12月25日(金)

ウィンタースクールの期間を利用し、(株)フォームページの野村



晋介先生からオンラインでご講演を頂きました。「キャリアデザインについて考える自分の将来は自分で考え自分で決めよう!」という内容でお話を伺い、その後グループワークで意見交換を行いました。

○日大・総進コース3年 交通講話

令和3年1月7日(木)

桜川警察署交通課より岩瀬俊輔課長においていただきました。簡単な反射神経テストでは、田路士温くん(3年5組)が協力してくれました。軽部友介くん(3年3組)は「事故は今までの生活を一変させてしまいません。被害者にも加害者にもならないよう、自動車は凶器でもある」とお礼の言葉を述べました。



ありふれた日常は奇跡



父母と教師の会
会長 鈴木礼子

「密です」

前年の朝顔の種をプランターに、ざざっと蒔いたところ、いっぺんに出てきた芽に思わず、コロナ対策で小池百合子東京都知事が呼びかけた言葉が頭に浮かびました。

わが家の庭には、すっかり葉が落ちたカエデの木があり、その枝先にメジロがやってきます。これまで富有柿が食べ頃になると、何羽か来て鳴いていました。ここ数年は見掛けず、コロナ禍の今年、その姿が見られてほのぼのとした気持ちになりました。

感染症防止のマスク生活の中で、相手の表情が分からず、口で語れないから優しい目をしてほしいと願う日々が静かに流れています。感染を恐れ、細心の注意を払っても、誰に褒められるわけではなく、元氣そうに見える人も、ボディーパーローのように、じわじわと疲れが溜まっていると思います。

私はいま「家族が健康であればOK」「この子達の母でいられたらOK」と自分に言い聞かせながら過ごしています。

このトンネルを抜けると、元通りの

暮らしがあるはずだけれど……。

社会全体が、コロナ以前の生活に戻そうとする力を感じます。けれど戻しちゃ行けない部分もあると思います。例えば、お父さんが家にいて、これまでやらなかった料理をやるようになったとか、飛沫を防止するパーテーションを会社の上司が一生懸命に作ったとか、上からの管理が及ばなくなる危機の時代こそ、新しいものが生まれる面白さがあります。

コロナ禍による緊急事態宣言や学校の臨時休校、再開後は夏休みの短縮、行事の縮小や中止。そしてマスク着用の学校生活と幾多の試練にさらされました。そして首都圏などで再び緊急事態宣言が出された状況下で共通テストを迎えることになりました。不安や心配は尽きませんが、特に受験生の皆さんには、誰一人として感染しないように祈っております。

新年がスタートし、これから水仙や梅、節分草などが咲き出し、花々の命から感動をもらうことを期待しています。

一年間を振り返って

桜川支部
支部長 真崎 剛

子どもが岩瀬日大の校門をくぐって、早いもので三年がとうとしていきます。父母と教師の会桜川支部長という大役を引き受けてからは、不安と緊張の連続でありましたが、校長先生はじめ諸先生方、役員の皆様、支部会員の皆様のご協力により、活動を無事終えることができました。

新型コロナウイルスの影響により、三月から二ヶ月あまりの臨時休校と、桜祭の中止、各部活動の制限、修学旅行の検討など、ほとんどの学校行事が中止や延期になり、子ども達はいつもとは違う一年間だったと思います。しかし、そんな大変な状況の中でもそれぞれが自分の目標に向かって、日々勉強に励み目標を達成しようと頑張ってきたことと思います。未だに先の見えないコロナ禍の中ですが、子ども達にはこの出来事を乗り越えて、立派な大人になってくれることを願います。子ども達に常に寄り添って熱心にご指導してくださった先生方、共にクラスで学んだ生徒の皆さん、三年間大変お世話になりました。

ありがとうございます。

鏡を見よう！

下館支部
支部長 相田要練

コロナ禍で生活様式が激変。息子もホームスタデイの中、我が家では家族会議を開き、コロナ太りの番人として最新型の体重計を迎えました。なぜならば運動不足で肥満急増とのニュースに危機感を抱いたからです。「リモートやネット販売等で便利になった裏側には思わぬ落とし穴があるかも。何事に付け、だってコロナだから、との決めゼリフを使って横着してしまう怠け病に陥ってはまずい」と。

勿論、便利さや合理的なことを否定するものではありませんが、原点に立ち返り元に戻る為の努力を行わないと、大変な方向に進んでしまうと再認識した次第です。それこそ「太りすぎて足元が見えなくならない様に」と。だから「鏡を見よう！」が合言葉として決議されました。

しかし上手くは行きません。コロナのせいにしてはいけなそうと思いつつも、鏡に映った我が身に「太って見えるのは鏡のせいだ」と愚痴をこぼすと、最新型体重計からは「悔い改めることに遅すぎることはないのよ」と返されました。



令和二年度を振り返って

県西支部
支部長 齊藤伸明

令和二年度の県西支部は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響でほとんど活動が出来ませんでした。

通常は、四月上旬の新旧役員会に始まり、下旬の支部総会、六月の桜瑛祭の焼きそば屋さん出店と慰労会、八月下旬には先生方を招いての学校生活や進路に関する地区懇談会と続くのですが、今年度は一月現在で役員会が一度も開催できず、一年生役員とは顔合わせもしていない状況です。そのため、令和三年度の支部活動がスムーズに実施できるかどうか、非常に不安なところでした。

そのことは学校生活でも同じであり、前例のない感染拡大の中で生徒の安全のためにご尽力をいただき校長先生はじめ先生方に改めて感謝申し上げます。

しかしながら、今後、新型コロナウイルスの感染拡大が終息に向かうかは不透明であり、コロナと共生する新たな学校生活を構築するため、柔軟かつ臨機応変な対応が求められますが、新一年生を迎えて、先生と生徒が一体となって、コロナに負けない当たり前の高校生活を送れることを、心より願っています。

ガンバレ 岩日!

一年を振り返って

ときわ支部
支部長 軽部美智江

今年度は、新型コロナウイルスの影響により、新年度早々、長期の休校を余儀なくされました。親子共々、これからの学習はどうなるのか、遅れはしないか等、不安を抱えながらの生活でした。また、様々な学校行事が中止となり、大切な思い出作りができなくなったり、部活動も、多くの大会が中止となったり、今までの努力を発揮する場を失いました。今までの何気ない日常がいかに大切なものであるかを痛感した一年でもありました。

しかし、このような状況の中でも、歩みを止めない学校と、教職員の方々の対応やご苦勞に、深く感謝いたします。

今後は、新しい生活様式、環境に、柔軟に対応しながら、前を向いて歩んで欲しいと思います。そして、早くこのコロナ禍が収束し、日常が戻り、穏やかな学校生活と、支部の活動ができるようになることを期待しております。支部活動を支え、協力いただいた皆様方、本当にお世話になりました。これからのご活躍を祈念いたします。



一年間を振り返って

北つくば支部
支部長 斎藤美保

満ちあふれた希望を持って入学した日から早三年。

例年とは違うコロナ禍の中で、感染対策として、学校で学ぶことが難しい状況に加え、部活動の規制、相次ぐ大会の中止で、いつもより子ども達の笑顔を見ることができないような一年でした。

しかし、先生方には、家庭学習の指示やリモート授業というオンラインでの勉強を自宅待機時にいち早く取り組んでいただきました。受験の対応として、先生方の熱心な気持ちや子ども達に伝わってくることで学校生活を過ごすことができました。一日でも早くコロナの終息を願っています。

私自身この一年、支部長として慣れない私を、役員、会員の皆様を支えられ、先生方のご指導とご協力によりここまで来ることができました。本当にありがとうございます。

最後に、会員の皆様ならびに岩瀬日本大学高等学校の益々のご活躍とご発展をお祈り申し上げます。



予想外な一年

栃木支部
支部長 仲野敦子

支部活動が一度もできずに、今年度が終わろうとしています。まさかこのような事態になるとは、誰も予想していなかったことでしょう。例年子ども達も楽しみにしていた桜瑛祭も中止になり残念でした。支部としても参加していて、準備から販売と大変なこともありましたが、やり終えると達成感が味わえ、とても良い経験になっていました。

毎回多くの保護者に参加していただいた懇親会も開けずに残念でした。情報交換の場でもあり、先生方と貴重な話もでき充実した時間を過ごせていました。その中でも、担当の笠倉先生が学校生活を撮影し上映してくださったビデオはいつも楽しみでした。生き生きとした表情で充実した高校生活を送れているな、と実感しながら毎回見ていました。

まだ出口は見えていませんが、いつかは落ち着くでしょうから、その時が来ることを信じて今は我慢の時です。子ども達にはうまく対応してこの試練を乗り越えていってほしいです。ご指導いただいた先生方、ありがとうございます。

部活動等報告

卓球部



茨城県高等学校卓球選手権大会
男子シングルス

優勝 鍋島 典(2年5組)
準優勝 染谷 悠寿(3年3組)

全日本卓球選手権大会ジュニア
の部茨城県予選

男子シングルス
優勝 鍋島 典(2年5組)
第5位 小口 悠斗(1年4組)

茨城県高等学校卓球新人大会
男子団体戦 優勝

※2年ぶりの団体優勝です。
関東高等学校選抜卓球大会

第5位 渡邊 直翔(2年1組)
中尾 壮(2年2組)

鍋島 典(2年5組)
海東 桃怜(1年3組)

小口 悠斗(1年4組)
瀧本 巨(1年5組)

中村 温(1年5組)
麦倉 琉雅(1年4組)

全日本卓球選手権大会ジュニア
の部本戦

男子シングルス 2回戦進出

鍋島 典(2年5組)
小口 悠斗(1年4組)

ソフトテニス部

茨城県ソフトテニス連盟高等学
校2020記念大会

男子個人
第3位 田谷 悠汰(3年5組)

第5位 高岡 優希(3年4組)
岡本 雅裕(3年2組)

第11位 山野 遵利(3年5組)
佐久間啓輔(2年1組)

女子個人
第12位 伊藤 拓海(3年2組)

第12位 佐口 蘭夢(3年5組)
増田 奈夏(3年4組)

茨城県高等学校ソフトテニス
新人大会

男子個人
第3位 佐久間啓輔(2年1組)

原田 興介(1年4組)
野沢 紘希(2年2組)

ベスト8 木村 創大(2年3組)
海老原章登(1年3組)

ベスト16 菅原 大夢(1年4組)

男子団体
ベスト8 佐久間啓輔(2年1組)

原田 興介(1年4組)
野沢 紘希(2年2組)

木村 創大(2年3組)
小島 颯太(2年3組)

菅谷日向登(2年3組)
海老原章登(1年3組)

谷 真弥(1年6組)

県西地区ソフトテニス選手権大会
女子個人
第3位 信瀬 葉奈(2年5組)

中野さくら(2年2組)

県西地区新人戦
男子団体 優勝
男子個人

優勝 佐久間啓輔(2年1組)
原田 興介(1年4組)

準優勝 野沢 紘希(2年2組)
木村 創大(2年3組)

第3位 沖村 采都(1年4組)
武田 知頼(2年5組)

第4位 小島 颯太(2年3組)
菅谷日向登(2年3組)

ベスト8 榎山 尚汰(2年5組)
館野 航平(2年1組)

ベスト8 加倉井 尊(1年1組)
谷 真弥(1年6組)

ベスト16 海老原章登(1年3組)
菅原 大夢(1年4組)

女子個人
ベスト8 信瀬 葉奈(2年5組)

中野さくら(2年2組)
※11月12日、14日に行われた県
新人大会に団体と個人男子7ペ
ア・女子1ペアが出場しました。

剣道部

茨城県高等学校剣道大会
女子団体

準優勝 大窪 妃真(2年5組)

関川 空楽(2年5組)
鹿内 花(2年4組)

関 千嘉(2年2組)
中島 初稀(2年3組)

木村 真由(1年5組)
江田 唯花(1年3組)

吉川 聖羅(1年5組)
谷貝和花奈(1年2組)

※3年生が試験などで出場でき

ない中、1・2年生中心のチー
ムで出場し準優勝の結果を収め
ました。決勝戦では昨年の国体
で全国優勝したメンバーが4人
残る守谷高校に代表戦で惜敗し
ました。

茨城県高等学校剣道勝ち抜き大会
女子団体

第3位 大窪 妃真(2年5組)

関川 空楽(2年5組)
鹿内 花(2年4組)

関 千嘉(2年2組)
江田 唯花(1年3組)

木村 真由(1年5組)



硬式野球部

秋季関東高校野球茨城県大会
一回戦 4-3(水戸工)

二回戦 0-3(石岡二) (ベスト16)

秋季県大会では十五年ぶりの
一勝をあげました。春季大会で
の県ベスト8を目標に、冬のト
レーニングに励んでいます。

また、強い野球部の以前に「良
い野球部」。野球部員の以前に

「良い岩日生」。岩日生の以前に
「良い高校生」であることを忘
れずに活動していきます。

サッカー部

限られた時間の中、日々練習
に取り組んでいます。冬の選手
権予選では、自分達の持つてい
る力を発揮しましたが二回戦で
涙をのみました。新人戦の県大
会も中止になる中、春の大会に
向けて頑張っています。結果・
内容ともに充実したものである
よう日々精進したいと思います。

バドミントン部

茨城県新人大会女子学校対抗
ベスト8 平 れな(2年4組)

菊池 真由(2年4組)
井関 絢末(1年1組)

木村 円香(1年2組)
谷畑 妃音(1年6組)

市川 沙耶(1年6組)
清水 陽菜(1年4組)

菅山 彩帆(1年3組)

※一限ら
れた練習
の中、み
んなで質
の良い練
習方法を
模索しな
がら大会
に臨み、
学校対抗
ベスト8
という成



績を収めることができました。大会を通して見つかった課題を次の大会に向けて改善できるよう、岩日バド部らしく明るく楽しく、高い目標をもって練習に励んでいきたいです。」(谷畑妃音)

女子ダブルス

ベスト16 井関絢未・木村円香

県西部地区新人大会

学校対抗戦

女子 優勝

女子ダブルス

優勝 井関絢未・木村円香

第4位 谷畑妃音・市川沙耶

ベスト16 平 れな・菊池真由

ベスト16 菅山彩帆・清水陽菜

女子シングルス

第4位 谷畑 妃音

ベスト8 平 れな

井関 絢未

ベスト16 木村 円香

清水 陽菜

県西部地区夏季大会学校対抗

男子団体

第4位 瀬尾 匠史(3年6組)

鈴木 亨(3年3組)

関 祥吾(2年2組)

小林 直樹(2年4組)

木村臣之介(2年1組)

小林 葵斗(2年4組)

服部 紋尚(1年3組)

仁平 空騎(1年4組)

女子団体 準優勝

女子ダブルス

準優勝 井関絢未・木村円香

第4位 谷畑妃音・市川沙耶

ベスト8 菅山彩帆・清水陽菜
ベスト16 平 れな・菊池真由
女子シングルス
第4位 平 れな
ベスト8 井関 絢未
ベスト16 清水 陽菜

バスケットボール部



11月の新人戦(男子)は残念ながら負けてしまいましたが男子の活動に刺激を受け、その後、女子チームが結成されました。現在男子9名・女子5名に限られた時間・場所の中で、楽しく練習しています。

ライフル射撃部

コロナ禍で試合ができず、3年生は試合がないまま引退。その事もあり、他校の先生方と相談、部員全員が試合に出られるようにと、11月に出場人数制限無しで県の新人戦が行われました。射撃用ウェアもようやく到着。修理に出していたビームライフルも到着し、装備品が充実。コロナ対策をしながらの練習

ではありますが、一層「思い」が乗っています。

水泳部

茨城県高等学校夏季水泳競技大会
女子 100m平泳ぎ 第5位
女子 200m平泳ぎ 第4位

赤木 美緒(1年2組)

茨城県高等学校新人水泳競技大会
女子 200m平泳ぎ

第2位 赤木 美緒(1年2組)

陸上競技部

茨城県高等学校夏季陸上競技大会
女子砲丸
第5位 松山 萌香(2年3組)

スキー部

全国高等学校スキー大会茨城県予選会
回転 優勝
大回転 優勝

黒須悠太郎(2年3組)

2月6日から長野県で開催される「全国高等学校スキー大会」に茨城県代表として出場します。尚、同じく茨城県代表として出場するはずだった「関東大会」は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となりました。

バレーボール愛好会

現在は経験者を中心に、11人が在籍しています。学年・男女関係なく、週1回の活動日には思いっきりバレーボールを楽しんでいます。

チアリーディング部

1年生が中心のメンバーです。本格的には7月頃から活動を始めました。みんなでおそろいのTシャツを作りチームの団結を深めています。みんなで踊れる曲を増やしたいです。



女子硬式野球愛好会

KWBF高等学校女子野球ユース大会に出場(9月6日)
岩瀬日大高校GBCにとって初めての公式戦でした。それまでの練習試合とは違って緊張の中で、観明高校との試合は3-16で敗戦でした。多くの方のご協力・ご支援があったからこそ踏み出した一歩です。これからも感謝の気持ちを忘れず頑張ります。

KWBFU-16チャレンジマッチ
トーナメントに村田女子高校と
合同で出場(9月13日)

新潟県の開志学園高校と試合は0-9で敗戦でした。コロナ禍の影響で事前の合同練習も

きず、当日初めて顔を合わせたメンバーですがみんな頑張ってくれたと思います。



吹奏楽部

現在吹奏楽の活動は、感染予防ガイドラインに沿って行っています。練習がままならない状況でしたが、日々練習を重ねて秋のアンサンブルコンテストに出場しました。人数が少ないながら楽しく活動していますので入部希望の生徒の皆さんは見学に来てください。

ソーシャルメディア部

茨城の魅力を探求し発信する高校生コンテスト2019
奨励賞「妖精と巡る羽黒旅。」
岩瀬日本大学高等学校代表
田沼 季絵(3年3組)

茨城県高等学校放送コンテスト
新人大会
アナウンス部門
第2位 緒方 桃子(2年1組)

※全国大会(紀の国わかやま総文2021)に出場します。
オーディオビジュアル部門

第3位

※疫病退散の願いをこめた本校の作品「ゆでまんじゅうと歩む未来」が初出場で県3位に入賞し、放送部門での全国大会初出場、創部初の快挙となりました。岐阜女子大学主催文化創造デジタル作品コンクール

お家デジタルアーカイブ部門 特別賞 緒方 桃子(2年1組) 第12回茨城県新聞コンクール ※全国大会(紀の国わかやま総文2021)に出場します。

ポランティア部

コロナ禍でもみんなが穏やかに過ごせるようにと思い、今年度から校内を花いっぱいにする取り組みを行いたいと考えています。まず、花の育て方、扱い方を知るために、いばらき花振興協議会で主催している「花育体験教室」に参加し、寄せ植えの体験をしました。そこで、花



園芸療法をい

う職業を勉強できたことも刺激的でした。自然豊かな緑に囲まれた本校は、癒しの空間だというお話もいただき、次は一年中校内に花を咲かせ、四季を感じられるようにしていきたいです。

美術部

茨城県高等学校総合文化祭美術展覧会 絵画の部 諸井 楓(2年1組)

文芸部

茨城県高等学校文芸部芸中央大会 俳句の部 最優秀賞 藤沼きらら(1年6組) ※全国大会(紀の国わかやま総文2021)に出場します。 短歌の部 佳作 緒方 桃子(2年1組)

総合科学部

例年参加しているモデルロケット協会の大会はコロナ禍で中止となりましたが、THK株式会社のものづくりに参加して、草刈り機の製作に励み完成させました。

合唱愛好会

今話題の「紅蓮華」を歌っています。今からでも入部大歓迎です。※感染拡大のため1月下旬より一旦活動休止しています。

パソコン愛好会

現在週1回情報検索室で活動しています。自作でパソコンを作成したり、ロールプレイングなどのゲームを自分たちで考えて作ったりしています。

ESS愛好会

週2回昼休みに活動しています。茨城県高等学校英語スピーチコンテスト(オンライン版)に参加しました。 優良賞 飯山 梓衣(2年2組)

軽音楽愛好会

学校が再開した6月より練習をスタートしましたが、軽音最大のイベントである桜蔭祭が中止となり、3年生は演奏なしで引退となってしまいました。一方で、1年生には、課題曲2曲を課して発表会を実施したり、動画での参加となりましたが、第2回茨城県高等学校軽音コンテストへの参加をした。感染に配慮をしながら活動をすることができました。



ダンス愛好会

現在コロナ禍の中で活動休止中です。桜蔭祭が中止になり、特に3年生は最後のステージを奪われ本当に残念でした。

ホームプロジェクト愛好会

週1〜2回生徒主体で活動しています。行事食や身の回りで興味があるものなど工夫して作って楽しんでいきます。



茨城県高等学校総合文化祭美術展覧会

- 書道の部
館野 航平(2年1組)
井坂 彩夢(2年1組)
吉原慎一郎(2年3組)
小林 葵斗(2年4組)

税に関する高校生の作文

- 県知事賞
仁平 咲南(1年1組)
茨城県租税教育推進協議会会長賞
齋藤 愛叶(1年1組)
下館税務署長賞
西岡 朋慈(1年2組)
下館租税教育推進協議会会長賞
小林 彩音(1年2組)

令和2年度3年生合格区分概況 ※合格数は令和2年1月7日までの結果です。

1 国公立大学等

合格者数 3名

大学名	合格数	大学名	合格数	大学名	合格数
茨城大学	1	群馬県立女子大学	1	高崎経済大学	1

2 日本大学(附属専門学校含む)

合格者数 101名

学部名	合格数	学部名	合格数	学部名	合格数	学部名	合格数
法学部	6	文理学部	10	経済学部	6	商学部	8
芸術学部	2	国際関係学部	3	危機管理学部	3	理工学部	8
生産工学部	12	工学部	20	松戸歯学部	1	生物資源科学部	15
薬学部	1	短期大学部	5	附属専門学校	1		

私の高校時代 ⑳

教諭(数学科) 原田 航 先生



一昨年土浦日大から岩瀬日大に赴任しました。初めての桜塚祭に長男が遊びに来たときに撮った写真です。

私の高校時代は、勉強・部活動・委員会と、かなり充実していたと思います。勉強は、辛く厳しいものでした。中学校時代に学年トップの成績を勝ち取り、受験勉強にも打ち込んでいたため、意気揚々と高校に入学しました。しかし入学してみれば、そこは同じように「中学校時代は学年トップの成績」の集団でした。周囲の圧倒的な学力に、自分が井の中の

プロフィール

- 生年月日 昭和61年2月4日
- 出身地 静岡県伊豆の国市
- 出身校 静岡県立韮山高等学校
- 最終学歴 筑波大学 教育学専攻
- 好きな言葉 常に全力、常に本気
- 趣味 読書 料理



中学2年生の時田方郡駅伝大会で優勝テープを切った瞬間の写真。

蛙であったことをまざまざと思い知らされ、大海の広さを知りました。授業についていくための勉強だけで手いっぱい、結局高校3年間は1日4時間以上の勉強を毎日していたと思います。意欲的というよりも、生きていくためにはそうでないといけない状況でした。部活動は、厳しいけれど楽しいものでした。中学時代に駅伝や長距離走に打ち込み、それなりに結果を残していたつもりでしたが、高校では鳴かず飛ばずの結果しか出ませんでした。箱根駅伝に出たい!と思っていたけれど、それは自分には決して実現できないものなんだという現実を思い知らされたときでもあります。しかし、走ることは好きだったので苦痛ではありませんでした。毎日、合計すれば20kmは走っていたと思います。朝練も昼休みの自主練も、部活動で最後までも、結果を残すことはありませんでしたが、やり切った達成感は今の人格形成にも影響を与えています。



町の広報紙に駅伝大会のインタビューを受けた記事が掲載されました。

振り返ってみると、高校時代が「いい思い出」と思えることは、好きな言葉でも書いた通り、「常に全力、常に本気」で生きていたからだと思います。このときは、自覚はなかったけれど、そのときそのときを精一杯に生きて、それがちゃんと自分の望んだ結果にも結び付いていました。勉強は辛く厳しいものだったけれど、なんとか第一志望の大学に合格することができました。部活動では、結果は残りませんが、最後まで走り続けていました。後夜祭実行委員も仲間にも恵まれました。楽しい思い出が送っていかれたら、なんとなく高校生活を送っていたら、こうは思えなかったと思います。なんとなく生活して同じような結果を得ていたとしても、心には何も残っていません。毎日全力で取り組む、自分の力を振り絞って生活していたからこそ、「あのときは…」と「いい思い出」として振り返ることができています。

3 私立大学

合格者数 29名

大学名	合格数	大学名	合格数	大学名	合格数	大学名	合格数
青山学院大学	1	国際医療福祉大学	1	作新学院大学	1	淑徳大学	1
城西国際大学	1	駿河台大学	1	聖徳大学	1	高崎健康福祉大学	1
高千穂大学	1	鶴見大学	1	帝京大学	1	東京経済大学	1
東京福祉大学	1	東京未来大学	3	東洋大学	2	常盤大学	2
二松学舎大学	1	日本経済大学	1	日本体育大学	1	白鷗大学	3
文教大学	2	立正大学	1				

4 私立短期大学

合格者数 1名

大学名	合格数
聖徳大学短期大学部	1

5 専門学校等

合格者数 18名

学校名	合格数	学校名	合格数	学校名	合格数	学校名	合格数
茨城県結城看護専門学校	1	宇都宮アート&スポーツ専門学校	1	宇都宮ビジネス電子専門学校	2	EIKA International College	1
大原簿記情報ビジネス医療専門学校宇都宮校	1	晃陽看護栄養専門学校	1	国際ティビシイ小山看護専門学校	1	筑波研究学園専門学校	1
つくばビジネスカレッジ専門学校	1	東京医科歯科大学霞ヶ浦看護専門学校	1	東京ベルエポック美容専門学校	1	東京ビューティーアート専門学校	1
栃木県県央産業技術専門学校	2	日産栃木自動車大学校	1	マロニエ医療福祉専門学校	1	水戸ビューティカレッジ	1

活躍する卒業生

「挑 戦」

岩日を卒業して、日大へ進学し、今は東京で転職に関わる仕事をしています。いろいろな方のやりたいことを応援する仕事です。

みなさん、将来、やりたいことはありますか？

僕は高校生の頃、そんなものではありませんでした。ただ、何もせずに3年間終えたくないと思い生徒会へ立候補しました。やってみないとわからんし、思い出にはなるかなって軽いノリです(笑)。大変なことは多かったのですが、壇上に立って全校生徒の前で話す機会が多かったからこそ、人前で話す自信ができました。こうした経験の連続が自分のやりたいことに繋がります。

「常識とは18歳までにできた偏見だ」なんてアインシュタインの言葉もあるように時間のあるみなさんは是非、臆せずいろんなことに挑戦してみてください。挑戦と聞いて何か大きいことをしなきゃと身構える必要はありません。気になるニュースを調べたり読みたかった本を読んできたりと身近なことなんでもいいんです。自分が興味を持ったことに一歩踏み出してみてください。

■^{すずきたくと}鈴木拓人

1995年 茨城県下妻市生まれ
2010年 下妻市立下妻中学校卒業
2013年 岩瀬日本大学高等学校卒業
2017年 日本大学文理学部物理生命システム科学科卒業
2017年 パーソナルキャリア株式会社入社

趣味：読書、ランニング、ボルタリング

近況：コロナ禍で家にいる時間が増え、自炊のバリエーションと読みたい本が増えました。最近は「マンガでわかる○○」といった新分野への入門書が多いので、気になることは勉強しやすいです。



卒業式にて



仕事で表彰を受けました



左から2人目が鈴木くん、右から3人目が大吉くん

おおよしりゆうせい

■大吉龍成

1995年 茨城県筑西市生まれ
2010年 筑西市立下館中学校卒業
2013年 岩瀬日本大学高等学校卒業
2017年 日本大学理工学部建築学科卒業
2017年 東京セキスイハイム株式会社入社
2018年 トヨタホームちば株式会社入社
2020年 高松建設株式会社設計本部所属入社

趣味：革製品、ドライブ

特技：妻を笑わせること

近況：3月にマイホーム、4月に赤ちゃんが生まれます！



シドニー修学旅行にて



結婚式にて

「青春」

今思うと私は真面目な生徒ではなかったと思います。ですが生徒想いな先生と親友と呼べる友のおかげで楽しい最高の高校生活を送ることができ卒業もできました。とても感謝しています。

小さい頃から寺や神社の絵を描くことや物作りが好きだったこともあり建築学科へ進むことに決めました。建築学を学んでいくと建築士として建物を設計したいという気持ちが強くなり、現在は建築士として住宅、マンション、ビルなどの設計をすることができています。実現できたのは家族や友人の支えがあったからです。

私の夢は「いいパパになること」です。両親が愛情を私に注いでくれたように、私も子供にしてあげたい、そして誇れる仕事でカッコいいパパでありたいと思っています。そして、「自分ならできる」と言い聞かせてここまでできました。根拠は特にありませんが今でもその気持ちを持っています！

こうして頑張れているのも「青春」があったからです。高校時代は「青春」がやるべきことだと思います。沢山笑って思い出をつくって周囲の方々への感謝を忘れず皆さんには、青春して、青春して、青春して欲しいと思います！！

ICTと教育について

ICT教育活用推進委員会

委員長 吉田邦孝

今思えば自分の中で、教育の中にICTを含めたテクノロジーが包摂されるべきではないか、または、教育とテクノロジーの分断が起きているのではないか、と感じたのは2016年の11月、教員対象の勉強会にて筑波大学の落合陽一先生の講演を拝聴したときでした。その中で、5年も経つと大学院での研究内容が、中学生の夏休みの宿題に組み込まれるという現実を知り、衝撃を受けました。

そこで、高校・大学で学んだコトだけでは、未来を生き抜く力にならない、現在の社会とつなぐ場を増やしていく必要があると考えるようになりました。そして、今の生徒たちは、刻々と状況が変化する乱気流の中を飛ぶ航空機のパイロットのように、状況変化が激しく予測できない現在・未来の中で、考え判断するためにも、学び続ける・学びなおす力と自分自身を変化させていくことが大切になってくると感じました。

現代は多くの人が、パソコン・スマートフォンを持ち、Information and Communication Technology【ICT】の上で効率よく、速度感を持って仕事をしています。さらには、人と

モノとインターネットが繋がる技術 Internet of Things【IoT】もどんどん進みSociety5.0という新たな社会を創造するための技術開発が行われております。現在の情報化社会の先にある Society5.0は、SDGsにあるようなジレンマと複雑性・相互性を持った多くの課題を、革新的な技術と人々の協働によって解決し、新たな価値を見だし、個人または集団での幸福感well-beingを高め合っていく人間中心社会になると言われています。

「今の高校生の学び方は、現代の仕事の仕方に接続しているのか、これからの変化の激しい時代に求められる速度感のあるリカレント教育に対応できるだろうか」

この4年間、多くの勉強会に参加し、高大接続改革・大学入試改革や社会から求められる人材育成と、一人一台環境がどう結びつくのかを学んできました。

OECDの調査等によると、日本の生徒は、調査対象国の中で、最も学習にデジタル端末を使わないが、ゲームやSNSの利用は最も多いという結果になっています。すなわち、日本の生徒たちの多くは、デジタル端末の利用



テレビ会議システムを利用したSHR (5/18)

が「学び」ではないところで起きていると言えます。

学び方改革の必要性が高まる中、その課題解決の一つが教育のICT利活用であり、そのためには、インフラと端末と利向上の3点が重要と考えてきました。

インフラについては、3年かけ、仕様決定・業者選定・事前調査・工事等を行い、ようやく今年度建屋内すべてWiFiが使えるように整備を行いました。端末については、在校生は各自の端末（スマートフォン等）を授業内で利用でき、新入生は共通の端末を予定しております。利用方法の向上は、昨年度より校内の委員会にて、利活用目的の策定、教員対象の研究会で学んだことの情報共有等を行ってきました。現在では、月一回の割合で学校内独自の教員研修会を行っております。しかしながら、教育ICT活用は、

奇しくも2020年2月28日コロナウ

イルス感染拡大防止のための休校措置により、加速せざるを得ませんでした。毎日の体調調査、各種アンケート、時にホームルームを行い、オンライン授業を行うまでになりました。卒業生講演会などの講演会もオンラインで行うことができました。この3年間の準備がなかったら、十分ではないにしても、今年の取り組みはできなかったのではと感じています。

一方で、私たち教職員だけでは、今年度、来年度以降のICTの利活用を進めることは難しかったと感じています。なぜならば、今年度の取り組みは、保護者の皆様のご理解とご協力がなければできなかったでしょう。生徒のみなさんが、明日の状況が見えない中、本校の先生方を信じて、取り組み、時に待ち、不具合やより良い方法があれば提案してくれた、そのような協力があってこそ、成し得たことでもあります。ご協力本当にありがとうございました。

まだまだ、不安な日々が続く世の中ではありませんが、生徒の皆さん、保護者の皆様と、ICTを含めたありとあらゆるコト・モノを利用しながら、この大きな時代の転換点を、岩瀬日本大学高等学校という箱舟で乗り切っていくことが、その先の、どんな状況でも乗り越えていく生き抜く力を持った生徒の成長につながると信じ、新たな教育の在り方を模索していきたいと思っております。



バドミントン優勝
1年6組



卓球優勝
2年2組

球技祭

令和2年10月29日



ドッジボール優勝
1年2組



バレーボール優勝
3年2組



ソフトテニス優勝
3年5組



ソフトボール優勝
3年2組

編集後記

「桜真」51号をお届けします。現在コロナ感染症の第三波をうけ全国的にも感染者が増加する中、感染の拡大を防ぐ環境の中で学校生活を送ることができているのも、環境整備や検温など校長先生はじめ諸先生方の日々の対応のおかげだと思っております。ありがとうございます。また、各ご家庭におかれましても細心の注意を払われていることと思います。

一年を振り返ると、行事や部活動の大会など中止になることも多い中、無事に球技祭が行われ、生徒の皆さんはクラスのTシャツを作り一丸となって盛りあがった一番の思い出の行事になったのではないのでしょうか。

まだまだ予断を許さない状況が続きますが、三年生は新たな道へと進みます。岩瀬日大で学んだこと、先生方や友人と過ごした思い出を胸に未来に向かって自分らしく一歩一歩進んでいく人生を送ることができまますようお祈りいたします。

発刊にあたり、ご寄稿いただきました皆様にはご協力深く感謝いたします。

広報委員長 山中隆行
(下館支部)